



祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報

天満アんざん

年首御慶

令和六甲辰年  
新春号外

結

令和六年元月 種治書



謹んで令和六年の新年を寿ぎ御皇室益々の弥栄と氏子崇敬者の皆様のご健勝ご多幸を祈念しお慶びを申し上げます。三年以上続いた新型コロナウイルスの感染状況も落ち着きを見せ、昨年五月には五類感染症の扱いとなりました。これにより私達の生活はコロナ禍以前のものに徐々に戻って参りました。しかしながらコロナ禍において多くのものが変化し以前と全く同じ様に戻る事は困難であります。在宅で働けるリモートワークやネットを使った会議などの技術は格段に進歩し日常化しました。反面実際に会って顔を合わせる事が大切さも学びましたし、人と会いたいという思いを改めて知らされました。「アフターコロナ」という言葉がありますが、これから私達はこの経験を生かして大切なものを後世に伝えていかなければならぬと思いまます。環境問題に関しては地球の温暖化は全世界で取り組む事が急務でありますし、ロシアとウクライナの戦争やパレスチナ問題は深刻化しており世界情勢は混沌としています。一方日本国内に目を向ければ円安による物価高騰、政治もけして安定しているとは言い難く多くの人々が不安に陥っているのが現状であります。そのような中で昨年は天神祭がコロナ禍以前の形で陸渡御・船渡御に加

## 御神縁

大阪天満宮 宮司 寺井 種治

謹んで令和六年の新年を寿ぎ御皇室益々の弥栄と氏子崇敬者の皆様のご健勝ご多幸を祈念しお慶びを申し上げます。四年ぶりに大川に浮かぶ船団と夜空と川面に輝く花火で彩られた船渡御には大変多くの方々にお越しいただきました。祭の諸費用の高騰や警備の件などをはじめ多くの問題も改めて浮上しましたが、何とか解決出来る様に務めて参り本年も盛大な天神祭を斎行して行く所存であります。

昨年は新年の社報に「祈」と揮毫させていただきました。生かされている今に感謝し精一杯日々の生活に力を尽くす事を御神前で祈るという気持ちで書かせていただきました。そして本年は「結」の文字を書きました。神社では多くの方々が祈りを捧げ願いを神様に託します。そしてその願いや思いが叶い成就すると神前に感謝の思いで参拝にいらっしゃいます。又年間を通じて多くの神前挙式も行われ新郎新婦と両家が結びつきお二人の末長いお幸せと両家の繁栄を祈願致します。多くの御縁が結ばれ私どもはこれを「御神縁」と申しております。御参拝の方々と神様とが神縁を結び清らかな気持ちになつて日々幸せに過ごしていただける様に神明奉仕に務めて参りたいと思います。

## 今年の干支

こうしん

### 甲辰(きのえ・たつ)



昨年は「癸卯(きぼう)」の年でした。

「癸」には、他者と共有できる正しい筋道を測るという字義があり、「卯」は、新しい分野に取り組み、万物を繁茂させる意味を持つています。ですから、昨年は、正しく筋を通して、新たな分野を模索すべき年だつたといえます。

一方の「辰」は、これまでの糺余曲折の活動から脱して、理想に向かって活発に歩み始めるという字義を持ちます。すなわち、さまざまな抵抗や妨害を克服しながら、慎重に歩みを進めていくことを期待されているのです。

よつて、「甲辰」の今年は、これまでの様々な抑圧から解き放たれ、新しい生活へ踏み出すことが求められます。世情に振り替えれば、コロナ禍による厳しい制約のもとで模索してきた理想的の生活に向けて、感染防止に留意しながらも、新たな一步を踏み出すべき年なのです。

(安岡正篤大人の著書から)

令和六年元旦 大阪天満宮

さて、今年は「甲辰」の年です。

「甲」は、草木の新芽が薄い包皮を破つて頭を少し出した姿

を表す象形文字で、

余寒の抵抗や風雪に逢いながらも伸びて行くことを表しています。このことは、「甲」が「十干」の最初に配され、「新たな一步」を含有させていることにも通じます。

一方の「辰」は、これまでの糺余曲折の活動から脱して、理想に向かって活発に歩み始めるという字義を持ちます。すなわち、さまざまな抵抗や妨害を克服しながら、慎重に歩みを進めていくことを期待されているのです。

## 武士から連歌師・俳諧師に

宗因は、肥後国八代藩(熊本県八代市)の藩士でしたが、藩主・加藤忠広の改易に伴って武士を辞め、京

# 西山宗因向栄庵跡

## 西山宗因向栄庵跡

まず、表門前右手に建つ「西山宗因向栄庵跡」の碑をご覧ください。宗因は、明暦二年(1656)に

江戸初期の俳句や連歌の世界に大きな功績を残した西山宗因(号は梅翁、1605~1682)をご存じでしょうか。あの松尾芭蕉(1644~1694)が、宗因は俳諧の「中興開山」と賞し、宗因がいなければ、芭蕉の俳句もなかつたというのです。

そのうちの一基は、元旦に詠んだ句です。初詣の機会に、ブチ境内巡りをお楽しみください。

元年(1652)には菅原道真公御神退七百五十年記念の「万句興行」を成功させています。

内には宗因にちなむ碑が三基もあり、そのうちの一基は、元旦に詠んだ句です。初詣の機会に、ブチ境内巡りをお楽しみください。

また、遊び心豊かで奇抜な発想の俳句は、談林派と呼ばれる一派を生み、井原西鶴も弟子となりました。

## 西山宗因の句碑

さむらじょううく

都に上り、連歌師・里村昌琢(1574~1636)の弟子となります。

やがて寛永十九年(1642)に大阪に移ると、正保四年(1647)には当宮連歌所の宗匠に就き、

翁(おう)、1605~1682)をご存じ

でしようか。

あの松尾芭蕉(1644~1694)が、宗因は俳諧の「中興開山」

だと賞し、宗因がいなければ、芭蕉の俳句もなかつたというのです。

そのうちの一基は、元旦に詠んだ句です。初詣の機会に、ブチ境内巡り

をお楽しみください。

元年(1652)には菅原道真公御

神退七百五十年記念の「万句興行」

を成功させています。

また、遊び心豊かで奇抜な発想の

俳句は、談林派と呼ばれる一派を生

み、井原西鶴も弟子となりました。





表門西側の戎門から入つてすぐ右手には、宗因没後百八十八年後の寛政十一年（1799）に建てられた句碑があります。その表面には次のように記されています、

**浪花津にさく夜の雨や花の春**

表門西側の戎門から入つてすぐ右手には、宗因没後百八十八年後の寛政十一年（1799）に建てられた句碑があります。その表面には次のように記されています、

宗匠として、また談林派の総帥として数多くの作品を残しています。このことから、昭和四十八年（1973）三月に大阪市顕彰史跡として同碑が建てられたのです。

なお、宗因の墓碑は、当宮から八〇〇m西北、天満西寺町の西福寺（北区兎我野町）にあります。

この句は、王仁の「難波津に咲く

やこの花冬ごもり今は春べと咲くや  
この花」（『新古今集』）を本歌と

しています。王仁は「難波津に花が咲いた。冬の間は籠つていたが、春になつて梅の花が咲いた」と詠んだ

ものだというのです。

初めの二行は、三行目の「浪花津に・・・」の句の説明です。宵の年

（大晦日の夜）に雨が降り、元旦に一輪の梅の花が咲いたことを詠んだ

この句は、王仁の「難波津に咲くやこの花冬ごもり今は春べと咲くやこの花」（『新古今集』）を本歌とされています。王仁は「難波津に花が咲いた。冬の間は籠つていたが、春になつて梅の花が咲いた」と詠んだものだというのです。

境内北東に鎮座する白米稻荷神社

の裏面には、「鶯の会」が、宗因の生誕四百年を記念して建碑した

松平忠告の支援により、この碑が建立されました。

のは、江戸で談林派を繼承し、七世を名乗っていた谷素外（号は一陽井、1717～1809）で、素外の俳諺の弟子であつた尼崎藩三代藩主・

「宵のとし雨ふりける元旦に  
一に梅花

には悲しくなつた」と詠んだのです。

には悲しくなつた」と詠んだのです。

が、宗因は「上を向いて眺めていると首の骨がいたし（痛し）」と笑わせます。

碑の裏面には、「鶯の会」が、宗因の生誕四百年を記念して建碑したこと、その文字は、柿衛文庫（兵庫県伊丹市）蔵の懐紙（花見西行偃息図）を写したものであることを記しています。



（2005）六月に建てられた比較的新しい句碑があります。表面に宗因の代表句が刻されています。

この句は、西行の「咲むとて花も

いたく馴れぬれば 散る別れこそ悲しきれ」（『新古今集』）を本歌としています。

歌としています。西行は「桜を眺めているうちに、いたく（甚だしく）

慣れ親しんでしまい、花が散るころ

ます（『摂陽奇観』）全文が復刻されています。

この銘文を記した

文化研究所 高島幸次



本年もよろしく  
お願い申し上げます

右から		二列目		三列目		前例	
稻原	川井	禰宜	宮司	禰宜	禰宜	禰宜	當繕
菅野	柳野	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	出仕
津江	寺井	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
中西	寺井	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
三宅	柳野	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
長谷川	青木	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
中村	今井	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
鈴木	園	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
國本	中村	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
南井	江戸	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
白杵	青木	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
須山	今井	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
渡邊	園	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
藤井	中村	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
北野	江戸	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
高嗣	青木	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
真矢	今井	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
浩秀	園	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
理絵子	中村	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
悠	江戸	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
拓郎	青木	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣
圭将	今井	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宣

大阪天満宮社報  
**天満てんじん** 新春号外  
令和五年十二月二十五日印刷  
令和六年元旦発行  
発行人 寺井種治  
発行所 大阪天満宮社務所  
〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁一八  
TEL ○六○六三五三〇〇二五